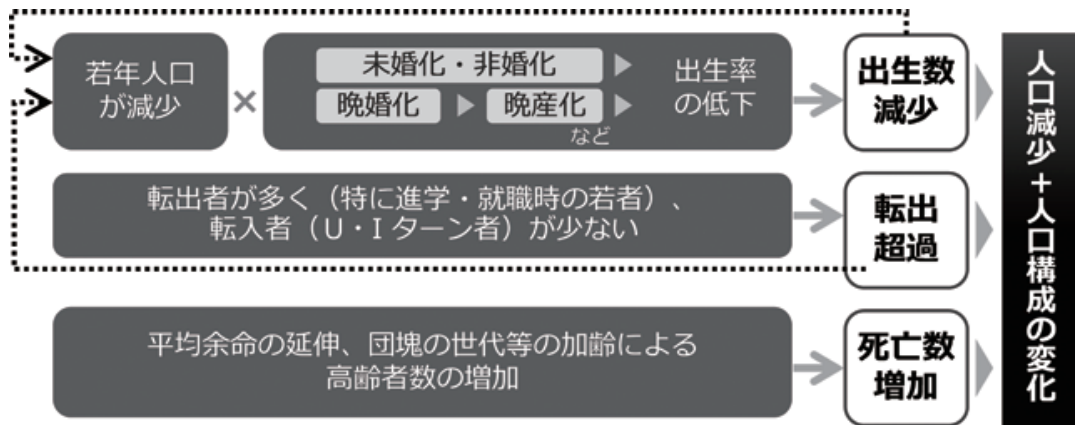
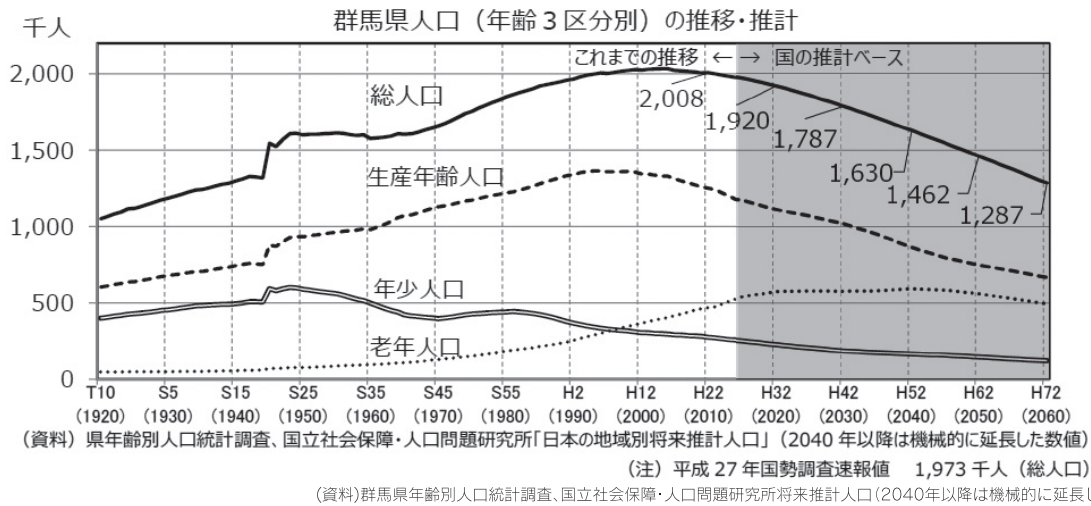


第4節 時代潮流

1 人口減少と人口構成の変化

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、本県の人口は、将来にわたって減少し続けることが予測されています。現役世代(15～64歳)や子どもの数が大幅に減少する一方、高齢者は平成52(2040)年頃まで増え続けます。



(1) 産業・経済への影響

- ◆ 今後、生産年齢人口は総人口以上のペースで減少し、各地域で労働力不足が更に深刻化するとともに、各産業において担い手の高齢化が見込まれます。
- ◆ 全国的な人口減少や人口構成の変化により、消費の減少が進行すると考えられ、県内総生産の低下や、それに伴う地域の産業・経済活動の規模縮小、雇用の減少や所得低下、地域からの企業・商業施設の撤退などが懸念されます。特にサービス業などの第三次産業は、本県の雇用の60%以上を占め、その撤退は地域の雇用機会の大きな損失となります。併せて、人口構成の変化に伴い消費の「質」も大きく変動し、本県の産業構造への影響も懸念されます。
- ◆ 総じて県内の農業、林業等の第一次産業への従事者の高齢化と労働力不足が進み、耕作放棄地の拡大や生産力の低下が懸念されます。その結果、特に中山間地域では、耕作放棄地の周辺で病害虫や鳥獣被害が拡大し、産地の維持が困難になるなど、地域全体に深刻な影響を与えるおそれがあります。さらに今後、人口減少による消費量の減少が、農家の所得低下を招き、担い手の確保が一層難しくなることも予想されます。